
俺とアニメと妄想と

ベルム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺とアニメと妄想と

【Nコード】

N2136Z

【作者名】

ベルム

【あらすじ】

もしイッサーがアニメオタクだったら？そして、某世界を大いに盛り上げる団の団長みたいな能力を手に入れたら？これは作者の趣味、妄想、ご都合主義、矛盾、主人公マジ強過ぎワロタ、敵哀れオワタ、武器は拳とその他もろもろが含まれます。嫌いな人は要注意（笑）：ジャンルは学園・冒険・エロコメディ・オカルトです。

はじめに（前書き）

アンケートにご協力してくれやがりました皆様ありがとうございました！

一応はこれのほかにも書いていくつもりです。

はじめに

さあ、はじまりました！

駄作者ベルムの新作が！

待ちに待った人はいないと思いますが・・・いや、いない新作！

舞台は悪魔・天使・墮天使・龍が蔓延って・・・はいない世界！

主人公は駒王学園2年生の兵藤一誠！

何を隠そう！

『ハイスクールDXD』

の世界だ！

・・・コホン。

ちよつと調子に乗りました。

やっぱり駄作量産者にこのハイテンションは維持できません。

まあ、とりあえず関係ないことは置いといて

はい、ついに新作を書きます。

って言っても、前作から2ヶ月しかあいてませんがね。

でも、ここで大きな問題が発生しております。

前までの構成だったら、問題なく悪魔に転生できたのですが。

そう、前までの話の進め方だったら、転生できたんです！

でも、今の構成で行くと・・・。

ヤバイ。

ひっじょくくにヤバイです。

一応転生というより、悪魔になることはできるのですが、それがあまりにも強引で……。

強引でも良いからとりあえず書いてみようとしますが、文句は受け付けません。

覚醒は小学6年生（前書き）

原作開始まではかなり遠い・・・と思われるでしょうが、

覚醒は小学6年生

Side:一誠

・・・上のSide:くっつて、いらなくね？
俺一人なんだからさ！

・・・ゴホン。

おっす！

始めましてだな。

俺の名前は兵藤一誠、地元の学校に通う小学2年生だ！

趣味はゲームにラノベを読むこと。それと、アニメを見ることだ！
後、おっぱい。おっぱいはすばらしい。俺はおっぱいのために生きているといつても過言ではない。

アレすごいね。

見た瞬間、キュピーンと来た。そう某連邦のホワイト・デビルが宿敵を感じたときみたいにな！

おっと、話がずれたな。

俺には皆と違い、不思議な力がある。

・・・あ、べつに異常とか過負荷とかじゃないぜ？

俺に不思議な力があるとわかったのは、俺が小6になって間もないときだった。

そう、俺はいつもどおり放課後友達と遊んでいるときだった。
友達の一人が

「鈴宮ヒルハの鬱憤ってアニメ知ってる？」

と聞いてきたのだ。

俺はドラグ・ソボールぐらいしかアニメはみたことが無かったから

「俺は知らないよ」

と答えた。まあ、あんときはアニメとかにあまり興味が無かったからな。

その後、

「これ面白いから絶対見たほうがいいよ！」

と言われ、DVDBox（全巻）を渡された。

どこから出した！？とか

何で持ってたの！？とか

野暮なことは聞かない。もともと不思議なやつだったから、今更って感じもしたしな。

とりあえず、その日はそこで解散となった。

俺は家に帰ってきてても特にすることが無かったから、友達から渡されたアニメを見ようと思った。

俺の部屋には、小さいが一応テレビがあった。

もちろんブラウン管のあののでかいやつだ。

「じゃあ、見てみよっかな？」

と思い、Disc1を入れて再生ボタンを押した。

}}
}}
}}
}}
}}

軽快な音とともに、アニメーションが流れていく。
所謂『OP』だ。
オープニング

「お、この音楽なかないな」

俺が結構好きな部類に入るテンポだったので、始めからテンションが上がった。

「お？始まったか？」

そこから俺の運命を大きく変えるアニメが始まった。

「・・・終わった」

観終わってDisc1をDVDプレイヤーから取り出す。
そして俺は

「メッツツツチャ面白いじゃん！これ！」

と、言いながらDisc2を入れた。

結局母さんが晩飯だと呼びに来るまで、夢中になってみた。

母さん曰く、『あんなに集中している一誠は初めて見た』とのこと。
それって何気に俺のこと貶してね？と、思ったが、大人な俺はあえて何も言わなかった。

鈴宮ヒル八の鬱憤の内容は簡潔に言つと

主人公の男がヒロインのヒルハに振り回されながら仲間を増やしていき、ヒルハの妄想が生み出した敵を、ヒルハが創った超トンデモ兵器でやっつけていくというものだ。

特に俺が興奮したのがヒルハの能力『妄想したことが現実になる』だ。

あれは俺の魂を根本から揺さぶった。

そして事件は起こった。

俺は

「あの超兵器カッター！」

と思いながら、自分が超兵器を使っている姿を想像・・・もとい“妄想”した。

そう“妄想”してしまったのだ。

そして、

いつの間にか、

手に、

重量感が・・・。

俺は超兵器らしき物を握っていた。

俺は超兵器らしき物をそっとベットに横たえて、ドアの前まで逃げた。

そっと置いたのは、落としたりして爆発するのを回避するため。

あの時を思い出すと『ナイス判断！』っていつも思う。

そして恐る恐る、近づいていき、ベッドの前まで行った。
気分は、13階段の9段まで上がったキリストの気持ち。
・・・わかんない？
俺もわかんね！

・・・ゴホン。
んで、そのままいろんな角度から超兵器らしき物を観察した。
結果

「これは・・・超兵器だな！うん！」
超兵器でした。

くく数分後くく
・・・とりあえず今はこの超兵器をどうするか考えなければ。
そう思った俺は、
超兵器が消えるように“想像”した。

・・・果たして、超兵器は消えなかった。

「やっぱりむりだった・・・」
俺は頂垂れた。

この超兵器はどうすればいいんだろうか？
また出てきたらどうしよう？
など、不安が募り、腹が痛くなった。

そこで俺は『ハッ』っと思いついた。

ヒル八達はどうかやってこの超兵器を消していたんだ？と。
俺は、急いでインターネットで『鈴宮ヒル八の鬱憤』と検索した。
ヒル八達によると、次元と次元の間に空間を創り、そこに保管して
いるらしい。
俺は、次元と次元の空間を創り、そこに保管する自分の姿を“妄想
”した。

結果

「き、消えたああああああ・・・」

超兵器は消えた。

ここで俺は思った。

『俺、ヒル八と同じ能力があるんじゃない？』と。
早速、自分がドラグ・ソボールの主人公『空孫 悟』と同じスーパ
ーベジタブル人になった姿を“妄想”した。

バチバチバチ

その瞬間、俺の体に電撃が走り、髪の毛が逆立つのを感じた。
そして俺は、

不覚にも涙を流してしまった。男泣きである。

「う、うう・・・」

その日俺はずっと泣いていた。
スーパーベジタブル人の姿で。

そこから俺の敵し・・・くもない修行(?)が始まった。

覚醒は小学6年生（後書き）

・・・ベジタブル人ってなんだ。

能力解析しよう！（前書き）

今回は能力を調べます。

イッセーの両親の呼び方は本来、お袋と親父ですが
小6なんで母さん、父さんでいきます。

・・・テスト中だから地味にきつい。

能力解析しよう！

おっす！

おっばいは全人類の共通の宝だと思っっているイッサーだ。

前はスーパーベジタブル人のままで泣いてしまい、危うく母さんにばれるところだった。

もう少し解除が遅かったら確実にばれてた。

ノックしてから入ってきて、っていつてるのにもノックしないんだよ！

まったく、俺じゃなかったらキレていたところだぜ。

母さん、命拾いしたな！

つとと。

とりあえずこの話は置いて、だ。

俺の能力が『妄想したことが現実になる』みたいなものということ
はわかったが、まだはつきりとわかったわけじゃない。もしかしたら、違うかもしれないし、合っているかもしれない。

とりあえず今は、自分の能力を確認することが今後の目標だ。
ということであの俺の能力画なんであるか調べたいのだが・・・

はつきり言ってどうしたら良いかわからないっ！！

いや、結構マジで。

さっき

「俺が頭いい姿を妄想したら良いんじゃない？」

と思っただが、俺が頭いい姿なんて妄想できるはずもなく。
結果は惨敗。

何と勝負しているかは不明だがな！

だが、これだけはわかって欲しい。

俺はそこまでバカじゃないってことを！

計算の過程を省いて先生から注意されたことだってあるし、漢字は
もともと好きだ！

だってなんか漢字で書くとかっこよくな？

ほら、空孫悟の必殺技でもある『ドラゴン波』も『ドラゴン』は『じ
や締まらないだろ？

だから結構漢字の勉強は真面目にやっている。

でも、特にこれといってできる科目がない俺は、自分が頭がいいと
思ったことは一度もない。

やっぱり妄想するには強いイメージが必要だからな。

うーん・・・どうしよう・・・。

『イツセー！お風呂入っちゃいなさい！』

「はい！」

とりあえず今はお風呂に入るぜ！

～～入浴中～～

ふう、さっぱりした。

やっぱり俺は風呂が好きだな。

でも、あんま入ってるとのぼせるから、そこらへんは見極める必要がある。

そして、

風呂上りの、

コーヒー牛乳は、

最ツツツ高である。

「ぶは〜」

「またイツセーったら。ほら、ひげがついてるわよ」

「ん、あんがと」

あ、両親との仲はいたって良好だ。

何でもこの歳あたりから反抗期なるものに入るといのだが、俺はその兆しさえない。

だって、別に何か不満があるわけでもないし？

反抗する理由が見つからん！

「お？父さん、それどんな映画？」

そう言っただけ俺はテレビを指さす。

「ん？ああ、これか？」

「うん」

「これはな、ある軍人さんが戦闘機が墜落した時に前世の記憶がよみがえって、前世の未練を無くすために頑張るお話なんだ。もう何百年も前の記憶らしくてな。でも、最後には無事未練を無くすことができる、それがまた泣けるんだよ」

「へえ〜、面白そうだね」

「ああ、面白いぞ。これはシーズン2・・・また違う人のお話だけ

ど、大体同じだな」
「ふん」

と、いいながら俺もソファアに座って父さんと一緒にテレビを見る。

～～鑑賞中～～

「うう・・・フランクは良く頑張った」
「ジェイソン・・・お前・・・漢だよ・・・漢の中の漢だよ！」

ううう・・・。

ジェイソンが今まで一人で戦線維持をしていたフランクを助けるために敵の中に一人で特攻を仕掛けたのは泣けた。ジェイソン・・・お前のことは忘れないッ！

「・・・もうこんな時間か」
「・・・あ、ホントだ」

もう夜の11時をまわっていた。

「じゃあ、そろそろ寝るか」
「わかった、おやすみなさい」
「おやすみ」

そうやって俺は二階に上がって入った。

～～2階～～

部屋に入って、すぐベッドにダイブした。

「前世の記憶、か・・・」

そう呟いて、もし自分がさっきの映画の主人公だったら、と妄想した。

そう、妄想してしまった。

その瞬間、頭に何か走りぬける。

それと同時に、ズキリと頭に大きな痛みがはしる。

そして、『誰か』の記憶が脳内で再生される。

「な、なんだよ、これ？」

『・・・ちゃん・・・は、ど・・・いくの？』

「こ、この人、だ、誰だよ？」

『おーい・・・け！先輩・・・で・・・』

「ま、まさか、これが、お、俺の前世の記憶？」

『いや・・・！目を・・・てよ！・・・ちゃん！し・・・いやだ！』

そして、真っ赤に染まる視界。

だんだんとあたりが暗くなっていく。

そして最後に見たのは、泣きじゃくる女性の姿だった・・・。

・・・お、落ち着け。

こういうときこそ冷静に状況を判断するんだ。

孫子も

「敵を知り、己を知らば、百戦危うからず」
って言っている。

・・・孫子って誰だ？

・・・あれ？記憶が・・・混ざってる？

俺が知らない人がいる。

俺の知らない話がある。

俺の知らない知がある。

俺の知らない・・・

アニメがある！

・・・俺ってこんなキャラだっけか？

・・・ああ！もうじれったい！

「もう何でもかかってこいや！俺が知らない人を知っている？それがどうした。俺の知らない話がある？それがどうした！俺の知らない知がある？それがどうした！！俺は俺だ！それ以上でもそれ以下でもねえ！」

ったく。

こんなことで混乱するなんて俺らしくないぜ。

・・・やべ、話し方が変わってやがる。

・・・ま、いつか。

これも含めて、俺だ。

「過去を否定してはいけない。過去を否定することは自分を否定することになる」

って有名なミュージシャンも言っている。

だから俺はこの記憶を否定しないし、今の俺も否定しない。俺にできるのはこれくらいしかないだろ。

・・・とりあえず記憶の整理、するか。

～～～整理中～～～

・・・どうやらこの記憶は俺とはまったく関係のないところらしいが、日本語だから、国内であるのは確かだ。

しかし、『ドラグ・ソボール』のようにこの記憶には『ドラゴンボール』なるものがある。

そのほかにもいろんなアニメや漫画、ゲームの記憶がある。

その中に『特定の人物の能力がわかる程度の能力』というものがあつた。

と、いうことで早速使ってみる。

NAME：兵藤 一誠

能力一覧：『2次元の能力を使える程度の能力』

『妄想したことが現実になる程度の能力』

『スーパージェタブル（サイヤ）人になれる程度の能力』

『特定の人物の能力がわかる程度の能力』

・・・大体わかった。

たぶん『2次元の能力を使える程度の能力』で『妄想したことが現実になる』能力を使ったってことか。んで、たぶん『2次元の能力を使える程度の能力』で発現した能力はこの【能力一覧】の中に出てくるってことだな。『妄想したことが現実になる程度の能力』で妄想したこともこの【能力一覧】に載るとしたら、『超兵器を造る程度の能力』というものがないとおかしい。『スーパーベジタブル（サイヤ）人になれる程度の能力』も『2次元の能力を使える程度の能力』で発現したのだろう。昔、『ドラゴン波』を撃てるように練習したことがあったが、できなかつた。たぶんそれは『技（業）』だったからだと思う。『2次元の能力を使える程度の能力』はあくまでも『能力』限定ってことなんだと思う。でも『妄想したことが現実になる程度の能力』があるから、今妄想したらたぶん撃てる。後が怖いから撃たないけど。

・・・改めて思うけど、すごい能力だな。
ちよつどいいことに、前世の記憶には“そっち”系の記憶がかなりあった。

特に『ファンタジー』と言われるジャンルのものが多い。

『北斗の拳』 『とある魔術の禁書目録』 『絶対可憐チルドレン』 『Fate/stay night』 『戯言』 『アホリズム』 『烈火の炎』 『ワンピース』 『東方project』 『NARUTO』 『BLEACH』 『めだかボックス』 『ハイスクールDxD』 etc .
.....

・・・これからが楽しみだぜ！

能力解析しよう！（後書き）

文句は受け付けないぜ！

有名なミュージシャンとは誰？

第一次夏休み計画！（前書き）

一誠

小6の夏休みを迎える

第一次夏休み計画！

おっす。

前回、所謂チート能力が発覚した場面を回想していた一誠だ。

能力がわかったのは4月中旬。

そして今は7月23日。

そう！

7月の下旬と言えば俺たちにとってはまさにパラダイス！な時！

NA・TU・YA・SU・MI！！

ヒヤホー—————！！

英語で言うと

「Summer Vacation」

だ！

何でそんなことわかる？

それがな、俺の前世の人が所謂バグキャラでな。

天才を超えた大天才おも超える超天才だったってわけだ。

だから、アニメとか記憶もはつきりあるし、勉強の方も『フェルマ
ーの最終定理』を2秒もあれば証明できる。

・・・え？

そんな短い時間だったら文字もろくに書けない、って？

ノンノンノン。俺はもう一般人じゃないのさ。

今の俺は通常時でも戦闘力1000万は堅いね。だから、字を書く
速度も光速だ。

たぶんだけど、スーパーベジタブル人、もといサイヤ人になったこ

とでこんな戦闘力になったと思う。

おかげで『力を抑える程度の能力』で全力で力を抑えていないと、歩いただけで半径10mはぶっ飛ぶと思う。

それはさておき。

夏休みは24日からだ。

つまり、明日から夏休みってことだぜ！

やったね！

つとと。

とりあえず夏休みの計画をしっかりと決めとかないと。

え〜つと？

まず8月13日からお盆（15日）に向けて実家に帰るから空けとかないとな。

・・・あ！

それと7月29日にニーディパークに行くって言ったから空けとかないとな。

あとは・・・特にないな。

友達も親の実家に行くらしいし。

じゃあ、俺はこの能力でどこかに行くとしますかね。

・・・よし！

計画はこんなもんでいいか？

7月24日

—

—宿題とかいろいろ終わらせる。

—7月29日：ニーディパークに行く。

—能力で一人旅。

—8月10日

—帰省期間

—8月16日

—またまた一人旅。

—8月26日：夏休み最終日

—8月27日：学校再開

・・・ふっふっふ。

我ながら完璧な計画だぜ！

そうと決まれば、早速宿題に取り掛かるぜ！

（～勉強中～）

・・・終わった。

・・・おかしい。

こんなはずではなかった。

な、なぜだ！

なぜ勉強が1時間で終わるんだ！

おかしいだろ！おい！

・・・あ。

俺の頭脳とか肉体とかその他もろもろもう人外ってこと忘れてた・・・。

・・・ま、いつか。

早く終わってダメなもんなんてねえぜ！

急がば回れ！だ！

・・・あれ？この四文字熟語、『急ぐんだったら、遠回りして行け！』って意味だったよな。

・・・じゃあ、ダメじゃん。

『近道は、大抵悪い道と決まっている』
って誰かも行っていたしな。

でも、早く終わったもんはしょうがないよな、うん。

つか、小学校の問題とか楽すぎて、寝ながらも解ける。
結構マジで。

しょうがない。

明日は夢画とか絵のコンクールに出す絵とかを片付けてしまおう。
読書感想文もやらないとな。

もちろんラノベの読書感想文だ。

・・・あ。

俺の部屋にラノベとかないじゃん。

唯一あんのが

『ドラグ・ソボール』

の漫画だけだよ。

・・・明日買いに行こう。

・・・はあ。

なんか今日は疲れたな。
寝るか？

そうだな。寝よう！

「おっやすみ〜！」

第一次夏休み計画！（後書き）

短いけど気にしないで。

つか、計画はじめてから崩壊してんじゃんww

Let's retrograde time!! (前書き)

ベルム特有!

無茶通し!

あらゆる無理難題を無茶苦茶に解決する

ある意味最強のゴリ押し。

一般・特殊防御貫通性能がついている。

Let's retrograde time!!

Today and A・P: 7月24日 午後

・・・おつす。

昨日、特殊課題以外全部終わらせたイツセイだ。
もとい、夏休み初日の午前までに夏休み課題を全部終わらせたイツセイだ。

・・・はあ。

さすがの俺でも、溜め息をつかざるを得ない。
考えてみるよ。

最初の一週間で全部終わらせる人がいれば、毎日少しづつこつこつ夏休み最終日にやる人もいる。
俺なんて最終日3日前からいつつもやってたぜ？

それが、それが、だ。

何で半日もたたないで終わるんだよっ！
おかしいだろっ！

今までの俺の苦労はなんだったんだよっ！

・・・はあ。

終わったことをいつまでも愚痴愚痴言ってもしょうがないか。
俺は過去を糧にして、前に進む男だ！
ただ只管に愚直に前に進み続ける！

どんな壁や闇があったとしても、すべてぶち壊す！
それしか今の俺にはできない！

・・・と、かついいことを言ってみたもの。
さて、ホント、どうするか・・・。

・・・ん？

そういえば、前世の記憶の中に『ドラえもん』ってのがあったな。
こっちの世界にも『シシのすけ』ってやつがあるけど、それとなか
かにてたような気がする。

でも、あつちは『タイムマシン』とかいうやつで、昔や未来にいけ
るらしい。

未来に行って宝くじの番号見てきて、帰ってきて宝くじやったら、
1等普通に出せるんじゃないね？

と、思った俺は悪くないと思う。
人間なのだから。

・・・いいこと思いついたぞ。

『タイムマシン』を使って、時間旅行なんてどうだ！

・・・やっべ。

これ、いける！

とりあえず俺の機の引き出しがワープホールにつながるようにして、
中に『タイムマシン』がある様子を妄想する。

「お、おおおおおお・・・」

繋がった！これでいつでも好きな時代に飛ぶことができるぜ！

「早速・・・いきますか！・・・とっ！」

スタッ

搭乗完了！準備万端！

「まずはどの時代に行くかだな」

今日は近場で我慢するか？

・・・いや！男たるもの、常に大きくあれ！

つてことで、適当に5000年前で！

ギュイーン・・・ヒュン！

・・・あれ？『タイムマシン』つてこんなに速かったっけ？

～～移動中～～

到着！

・・・つて、ここどこだ？

周りを見渡しても、森とクレーターがあるだけで・・・。

「つて、クレーター！？」

おいおいおい！なんでクレーターがあるんだよ？

ここは月か？

・・・いや、それはないな。宇宙に月がちゃんとある。

つてことは、だ。

ここで何らかの戦闘があったんだろうな。

でも、こんなでつかいクレーターができるなんて……。どこの人外さんかは知らないが、あまりここにいるのはよろしく無さそうだな。

「さつさと移動s・・・ん？あれは・・・馬？」

森の入り口にもたれかかる様にして、馬（と言っても、30cmぐらい）がいた。

怪我をしているようで、動けないようだ。

「うん、ここで見捨てるのは・・・ないよな」

うん、ここで見捨てたら後味悪いし。

何より男が廃る！

男は常に優しく、親切であれ！

それが俺の紳士道第三条だ！

と、言うことで

「どれどれ、どんな怪我を・・・っ！」

全身に擦り傷があり、右足と右肩、心臓に近い部分に刺し傷があった。

血を流しすぎたのか、体温は下がり、もう虫の息だ。

素人の俺から見ても、一目で重体だということがわかった。

「これは・・・ひどいな・・・」

そう呟いたとき、馬が目を開けて俺を見てきた。

その目にあつたのは『諦め』だった。

「そんな目・・・するな！絶対に助けてやるから！それまで、生きろっ！」

そう叫んで、急いで回復系の能力や技を探す。

・・・ない。

・・・これは・・・だめだ！

・・・くそっ！・・・ん？

「トワイライト・ヒーリング聖母の微笑み・・・？」

これだ。

これがあれば助けられる！

使い方は・・・わかるっ！

「うおおおおおおおっ！！！！！治れっ！！！」

そう叫びながら俺は馬に手をかざす。

そこから淡い緑色の光が漏れ出し、次第に馬の身体全体を包んでいく。

そして見た限り傷が完全に塞がった。

「ふう・・・これで一応は大丈夫・・・じゃないな」

聖母の微笑みはどんな傷であっても治せるが、失ったものは治せない。

つまり、今この馬は傷は塞がっているが、体力もほとんどないし、常時貧血状態ってことだ。

そこで！

「貧血で困っている貴方！貴方にはこの『増血剤』なんてイカがでしよう！」（CV：某通販会社社長さん）

と、いうことで最近やってた通販番組のマネをしながら、増血剤が手の中にあるように妄想する。
するとどうでしょう！

一瞬にして手の中に増血剤が！

「と、いうことで、はい！これ飲んでくれ！」

そう言っただけ俺は馬に増血剤を渡す。

なんとなく俺の言葉を理解してくれそうだったから、とりあえず言ってみた。

「・・・ひひい・・・ぶるっ・・・」

パク

・・・か、くあいいい。

食べ方に萌えてしまったのは、仕方ないだろう。

もともと俺は動物があまり好きではないが、今ので好きになった・・・
・様な気がする。

「後は・・・毛布！」

体温を上げないと！

と思った俺は、フツカフカでぬつくぬくの布団を妄想する。

寒い日の寝起きの布団・・・みたいな。

「よしっ・・・俺も寒いし一緒に入るか・・・」

そう言っつて俺は馬を抱きかかえながら、一緒に布団に入った。

あゝ又クイ。

又クイぞ〜。

「ふあゝああ。眠くなってきたな・・・寝るか」

と言っつことぞ

「おやすみ〜」

「ふう・・・ぶるう・・・」

そう言っつて俺たちは眠りについた。

馬はどうか知らんけど・・・。

L e t · s r e t r o g r a d e t i m e ! ! (後書き)

可愛いと書こうとしたら、くぁいいにいつの間になってたからそのままとした。

後悔も反省もない！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2136z/>

俺とアニメと妄想と

2011年12月11日19時49分発行